

「人間愛の金メダル」

作…加藤奈那華

画…原田安美

⑤ 「体操日本代表、団体金メダル〜！」

時は1964年10月、日本では東京オリンピックが開催されていました。

国立競技場での盛り上がりはもちろん、人々は手に入れたばかりの家庭用テレビの前で家族や友人と試合観戦に夢中になり、選手たちを応援していました。

そんな中、神奈川県江の島では、セーリング競技のレースが佳境を迎え、会場は熱気に包まれていました。

[199]

(ピューピューピュー、バタバタバタ、

ザブンッ、ザバンッ)

強い風が吹き荒れ、波もヨットの帆も大きな音を立てています。

そんな悪天候の中、レースの先頭グループを走るのは、オーストラリアチーム！嵐にも負けない力強い走りを見せています。

続いて第2グループを走るのは、スウェーデンチーム！こちらでも力強い走りで、先頭グループにギリギリと迫っていきます。

[199]

白熱のレースが行われたそんなとき！

（ザバーン！ドツバーン！）

瞬間風速15メートル、風に向かっては歩  
けぬほどの激しい突風が吹き荒れ、白く高い  
波がレース中の選手たちを襲いました。

\*レースは？

\*選手たちは？

\*大丈夫なのか？

激しく荒れる波の中、よく目を凝らして  
みると・・・

[134]

⑤「あー！なんということでしょう！大変なことにになりました！

先頭グループを走っていたオーストラリアチームが転覆してしまっています。選手は？選手は無事なのでしょうか？おっと、ゼッケン番号221のダウ艇長はヨットにしがみついています！もう一人の選手はどこだ…。あーウィンター選手です！なんと荒れる海に投げ出されてしまっています。すー！」

⑥「Help me---!! 助けろっわー！ Help me---!!」  
ウィンター選手は必死に助けを求めます。  
それでも風は強く、波も高く、危険な状態が続いています。 [227]

オーストラリアチームの転覆により金メダルへと一歩近づいたスウェーデンチーム。この悪天候の中レースに挑むのは、キエル兄弟のふたりです。

⑧「兄さん！兄さん！オーストラリアチームが転覆したぞー！」

⑨「なんだってー？よし、このままゴールすれば金メダルも夢じゃ無いぞー！」

⑩「うん…だけど…」  
ふたりは金メダルを目指し、レースを続けるべきなのか、転覆したオーストラリアチームを助けに向かうべきなのか…。

一瞬の迷いのあと！キエル兄弟は決めました！  
[226]

⑧ 「よーっ・やっぱり助けに行こうー！」

転覆し、海に投げ出された選手をキエル兄は目の前で見ていました。そんなふたりを残してレースを続けるわけにはいきません。兄弟はぐるっと、船の向きを180度変え、ふたりの選手を助けに向かいました。

⑨ 「Hey-! Are you OK?」

We will help you soon---!」

大丈夫か?いま助けに行くぞー!と声をかけながら、キエル兄弟は、ゴールから離れるように100メートル以上コースを戻り、オーストラリアチームのところに向かいました。

[204]

そして、オーストラリアチームのところまで引き返すと、急いで救助用ロープを投げ入れました。

㊦「Catch this rope!! ロープにつかまるんだ」  
でも、風が強くてなかなかロープが届きません。それでも、何度か投げて、ようやく届けることができました。

㊧「強くつかんで離すんじゃないぞー」  
オーストラリアチームのふたりは、激しい波にのまれながらも、ロープを離さず、しっかりとつかみ続けました。キエル兄弟もまた、激しく揺れる船の上で、一生懸命にロープを引っ張りあげ、ふたりを見事助けることに成功しました。  
[235]

㊦ 「Thank you. Thank you.

本当に助かりました。ありがとうございます。」

オーストラリアの選手を救助隊へと送り届けたキエル兄弟。

その後ふたりは、大きく手を振りながらコースへ戻っていきました。ダウ艇長とウィンター選手のオーストラリアの選手ふたりも、キエル兄弟の無事のゴールを願って手を振り、レースへの復帰を見送りました。

「146」



オーストラリアチームの救助のあと、レーズに復帰したキエル兄弟でしたが、結果は1位。つかみかけた金メダルを手にすることはできませんでした。

それでも、試合後、キエル兄弟はこう語ったそうです。

④ 「海で遭難している人を見つけたら、助けるのは当然さ。僕たちはスポーツマンとして当たり前のことをしただけ。何も特別なことなんてしてないのさ。」

[100]

感動のレースの翌日、救助されたオーストラリアチームは、キエル兄弟との再会を願って、ヨットハーバーを訪れました。

彼らがやってくるのを待っていたその時、そこに、キエル兄弟が登場！

㊦ 「昨日は本当にどうもありがとうございます。

レースの途中にもかかわらず助けてくれて、君たちは本当に素晴らしい心を持ったスポーツマンだよ！」

㊦ 「君たちふたりが無事で本当に良かったよ。

またいつか、セーリングの試合で戦いましょう！」

「197」

みなさんはどう思いましたでしょうか？

スポーツには、競争という、競技による順位争いに隠れた、素晴らしいさがあるというところを感じてもらえたでしょうか……。

たとえ競争していても、選手たちはみんな仲間です。オリンピック・パラリンピックという夢の舞台を目指して、たくさん努力をしてきた仲間です。仲間だからこそ、助け合いが大事なのです。

みなさんの近くにも仲間がいるでしょう。家族、友だち、それから、ご近所さんだって仲間です。助け合いを大切にします。そうした小さな助け合いの積み重ねが、きっと平和な世界を築き上げていくことができます。

【2557】

※ 大会前に作成したオリジナルバージョン ※

さあ、2020年には、東京へオリンピック・パラリンピックがやってきます。そして今回も、江の島ではセーリング競技が行われます。どんな白熱した戦いが待っているのでしょうか…。

どんな感動的なスポーツマンシップがあるのでしょうか…。

どんな素晴らしい大会になるのでしょうか…。

メダル・順位争いの裏に隠れた「人間愛の金メダル」をたくさんの方が手にしますように。

【179】

【完】

※ 大会後に作成した修正バージョン ※

2021年には、東京にオリンピック・パラリンピックが帰ってきましたね！

新型コロナウイルス感染拡大による開催の1年延期、無観客での大会開催……。もどかしさの残る大会だったかもしれませんが。

でも！ いや、だからこそ！

選手のスポーツにかける熱い「声」、選手へ届けと願う応援や感謝の「声」、たくさんの温かな「声」が聞こえてきました。

メダルや順位争いの裏に隠れた「人間愛の金メダル」。

選手だけじゃない、多くの人が手にした大会だったのではないでしょうか。

【完】